

初回審査二次が何とか無事に終了致しました。まだ、取得できるかどうかは2ヶ月先の判定会議の結果を待つしかありませんが、多分大丈夫だろうと確信を致しております。又、同時に大きな壁を越えることが出来たことに安堵致しております。

1年前は、今日のような日を迎えることが出来るとは全く思っておりませんでした。当社のお得意先の多くが ISO を取得されていく中で、「品質」に対する意識が年々高くなっていることは日々の営業活動を通して肌で感じておりましたので、将来的には ISO を取得していない企業では注文を取れない時代が来るのではと考へ、平成 20 年の 7 月頃に ISO の取得を決断致しました。

最初は、ISO を取得した当社のお得意先を訪ね、ISO 取得の方法を調査することから始めましたが、これが不安を生む種となりました。分厚い品質マニュアルという書類の束。取得するのも大変だけど、取得してからも大変だよという有り難いアドバイス。ISO 取得までにかかったバカ高い費用明細資料。訳のわからない専門用語。果たして私どものような中小企業が ISO を取得できるのだろうか？不安一杯の毎日でした。そうした中、インターネット検索で出会いましたのが、「アイソ・ラボ株式会社」様でした。

アイソ・ラボ株式会社様のホームページを最初に拝見した時の印象と致しましては、「今まで自分が聞いていた内容とは違う。これなら何とかかなりそうだ。」ということでした。直ぐに「取る前に読む本 ISO9001 編」を取り寄せて読んでみました。他の解説書と異なり、大変読み易い内容で、すぐに読み終わることが出来ました。不安一杯でした私には、この書籍が暗闇のなかの灯火のように感じた記憶が今でも残っております。

すぐに、コンサルティングを前提でのお話を伺いたいとのお願いを致しましたところ、当社に来られましたのが名古屋事務所の森井様でした。森井様は私の愚痴めいた悩み事に黙って耳を傾けられ、その後に笑顔で、「ISO 取得を考えられている企業様は大なり小なり皆同じ悩みと不安を持っています。大丈夫です。御社なら ISO 取得できますので安心して下さい。」という言葉頂き大変心強く感じました。

その後、アイソ・ラボ様ならではの ISO に対する考え方をお聞かせ頂きましたが、その説明の中で一番印象深く残っているのが、「何も立派な分厚い品質マニュアルを作ろうとする必要は何も無い。その会社の実態に即した独自の ISO マニュアルを作れば充分です。それで ISO 取得できます。今、実際に日々の業務で行っていることをベースにして品質マニュアルを作れば、その品質マニュアルが一番利用出来る生きたマニュアルなのです。」という内容でした。

その後、コンサルティング費用のお見積書とスケジュール案を頂いたのですが、約半年後の初回一次審査の日程を見た時は、そんな短期間で取得出来るのかと大変驚くと同時に、そんなに短期間で取得するとなるとかなりの時間を ISO 取得活動に取られるのではと覚悟を決めました。

平成 20 年の 12 月 4 日に正式に ISO 9001 取得に向けてキックオフを致しました。まず、品質マニュアルが完成するまでの約 4 ヶ月は、午後 1 時から 5 時までの 4 時間の会合を月 2 回の割合で開催致しましたが、当初考えていたほど ISO に時間を取られるという思いは感じなかったというのが本音です。進め方は、森井様からのインタビュー形式にて仕事の内容や帳票類の内容を各担当メンバーが答えていくというやり方が大半でした。そうした過程の中で、日々の仕事内容を確認しながら、部門間で意見交換をし、改めて作業内容を見直すことが出来ましたことは品質マニュアル作成の副産物としては大変よい機会が持てたと感じております。

当初予定よりも 1 ヶ月程遅れましたが、5 月末に何とか品質マニュアルが完成致しました。出来上がった品質マニュアルはかつて自分が他社で拝見した、分厚いものとは程遠い薄っぺらなマニュアルでしたが、その内容は当社の日々の作業をベースに置いた当社独自の品質マニュアルに仕上がっていました。

ISO 取得に向けた品質マニュアルの作成という特別な活動をしたわけでは無く、森井様のリードに従って自分達の日々の仕事の進め方をよりよいものにする為にはどうしたら良いかという観点から議論

を続け、その結果がマニュアル作成となりましたので、それまでの4ヶ月は本当に有意義であったと感じておりますが、それをマニュアルとしてまとめられた森井様のご努力には大変感謝を致しております。品質マニュアル作成後は、当然マニュアルに沿った作業を日々各部署で行っていくわけですが、最初から日々自分達が行っていることをマニュアルにしたわけですから、マニュアル運用に際しての混乱は全くありませんでした。

次に、「内部監査」に関しては、他部署間の責任者同士がお互いの業務内容に関して議論を交わす良い機会になったと感じています。それまでは、他部署の業務内容には関心があっても、越権行為的な意識もあり、あまり突っ込んだ意見交換の場はなかったのですが、内部監査員という立場では必然的に気になる点を指摘しなければならなくなったために、結果として意見交換をせざるを得ない状態になったのではと思っております。部署間の壁が無くなり、当社の仕事の進め方としては何が一番理想的な形なのだろう。そして、その為に自分達の部署は何をしなければならぬかを確認する作業であった気がします。又、「内部品質監査チェックシート」の作成という作業を通じて、それまでは部署毎（要求項目毎）で把握をしていた品質マニュアルの内容が総合的に一つの流れとして理解することができるようになったと思っています。

初回審査一次の日程を一週間後に控えた7月20日に、森井様に模擬審査をお願いし実施して頂きました。本番さながらの模擬審査にISO推進チームのメンバーは四苦八苦致しましたが、結果的にはこの模擬審査のお蔭で実際の審査の際は落ち着いて受けることができました。

初回審査一次が7月29日に、そして初回審査二次が1ヶ月後の8月25日・26日と2日間に亘って実施をされましたが、審査員の方々からは「良く出来ていますね」とお褒めの言葉を頂きました。しかしながら、ISOは取得をして終わりではありません。むしろ、取得をしてからがスタートだと思っています。だからこそ一番最初が大切なのだと感じています。

アイソ・ラボ株式会社の森井様から最初にお話頂いた、「背伸びをして立派な分厚い品質マニュアルを作ることがISOではありません。その会社の実態に即した利用価値の有る生きたISOマニュアルを作れば充分です。」という言葉の重さを改めて実感している次第です。

株式会社 大洋プラスチック工業所
坂野 友昭

その後平成21年10月に正式に認証取得されました。